

この子らと

第7号平成30年11月

まことの保育

おもほり



鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

可能性へ挑戦の成果発表

ピグマリオン効果とは、教育用語です。「アメリカの教育心理学者が発表しました。教師が期待をかけた生徒とそうでない生徒で成績の伸びに明らかな違いが見られた。つまり、教師の期待する心が子どもたちのその後の成長を決定する大きな要因となる」ということです。

別な見方をいたしますと子どもたちは、どの子どもも一人一人が成長する可能性をもっているということです。

「全ての子どもたちに職員が平等に期待をもって教育・保育を進めることが子どもたちを一人ももらすことなく成長させることにつながる。」ということをも本園の教育理念として進めてまいります。そして、このことを運動会等いろいろな場や機会に子どもたちの姿で保護者のみなさまに証明することができたらと思っています。



運動会は子どもたちの可能性への挑戦であり、本園職員の指導の説明責任の場でもありました。

子どもたちの一生懸命な姿は心を揺らします。子どもたち一人一人にかけられたメダルの横に大きな花丸を添えたいと思います。

特に途中でころんだ子どもたちが数名おりました。転んでも泣かないでゴールをめざす姿には大きな声援がおこりました。強い心をもつことができた子どもたちでした。感動のゴールテープであり自分の心への挑戦でもありました。



日置市の農園でお芋ほり



体験は、子どもたちの世界を拓けます。

- 土の感触や収穫したお芋の重みをからだで覚えます。
- お芋ほりで身体の動かし方や道具の使い方を学びます。
- お芋を作ってくれた人、給食や焼き芋を作ってくれた人等たちへのありがたさを実感します。

県立鹿児島聾学校と年中組との交流



お芋の贈物

大玉ころがし

「園長先生、聾学校の子供たちはすごいですね。わたしがお話をするときには、わたしの口元、顔の表情を真剣に目をそらすことなく一生懸命に見ています。口元や表情等から話の内容を読み取ろうとしているのですね。感動しました。」と年中担任が話してくれました。

聞こえる世界、聞こえない世界の子どもたちが交流することで、言葉以外で自分の思いを伝えるコミュニケーションの仕方を学び、つながり合う対話ができるようになります。

人的交流で生きる上での大切なことを学びます。

--	--